石算研だより

文責：事務局長　髙橋　綏
（恵庭恵み野旭小）

今年度の算数部会の活動について

日頃より算数部会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。臨時休校があけ、部会員の皆様にとっては学校再開後の慌ただしい日々をお過ごしかと思います。

さて、６月に入り石教研事務局より今後の石教研活動について、以下の新たな方針が打ち出されました。

【石教研事務局の方針（６月５日提示）】

① １０月１６日（金）の専門部会二次研究協議会について、「時数確保」「安全面」「継続研究」の観点から、今年度に限り休校措置での開催は行わない。

② 専門部会の活動は、１０月１６日（金）までを「取組前半」、それ以降を「取組後半」に分け、取組の前半・後半を通して研究内容の啓発活動を行う。そのために、取組前半を従来通りの研究期間とし、各部会で何らかの協働研究を行う。

上記の方針を受け、算数部会事務局として現時点で確認している今後の活動については以下の通りです。

【今後の算数部会の活動について】

１．実技理論研修会

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校現場では様々な措置を講じて日々を過ごしているところです。３密を避けての実施の困難さと、会場校や依頼講師への負担を考慮し、大変残念ではありますが、**今年度の実技理論研修会は実施しない**こととします。

２．今年度の活動についての基本的な考え方

石教研事務局から、今年度の専門部会の研究が３年次研究の１年目と位置付けられ、「次年度へつなげる年」と提示されました。それを受け、算数部会として今年度の研究推進については「新しい研究内容を部会員で共有する年」とおさえます。

３．各市町村の取り組みについて

（１）今年度の研究内容「２０２０年度　研究の方向」を日常実践に活用

学校現場においては、時数、指導計画についても制限のある中で日々の授業作りに苦労されている状況かと思います。そのため、新学習指導要領に示されている「対話的な学び」はもとより、提示させていただいた研究内容のすべてを日常の実践に生かすことは難しいとおさえています。ぜひ研究内容を一読していただき、ほんの一部だけでも子どもたちの学びに生かす機会を作っていただけると幸いです。研究内容の冊子は算数部会事務局から各校へ配付しています（６月中に配付完了予定）。研究内容についての十分な説明もできないまま提示させていただく形となり、申し訳ありません。研究に関わるご質問、ご意見等は算数部会事務局にお問い合わせ下さい。

【部会員の皆様に日常実践で意識していただきたい点】

大変難しい状況かと思いますが、今年度の研究内容の中でも以下の２点について可能な限り実践に生かしていただき、自主研修を進めることで次年度へつなげていきたいと考えます。

＜研究内容１＞（１）「問い」を生む問題提示のしかけ

＜研究内容２＞（１）「発想の源」を問う場面設定

（２）「取組前半」について　＜10 月 16 日（金）まで＞

今年度の学校現場の状況を考慮し、例年のような各市町村の授業者を立てての提言、実践資料の作成は予定しておりません。算数部会事務局としては、「取組前半」で次年度の研究につなげるための実践可能な活動を現在検討しているところです。

（３）「取組後半」について　＜１０月１９日（月）以降＞

石教研事務局より、「取組前半」までの内容を、今年度の全部会員へのアンケート、また今年度の研究成果をまとめる『石狩の教育』第 66 集に反映することが示されています。具体的な取り組みについては（２）の「取組前半」の内容を明確にした後に検討し、お知らせ致します。

各市町村の取り組みとしては、まずは上記（１）を基本とし、部会員の自主研修をすすめることとします。同時に算数部会事務局で（２）取組前半の「次年度につなげるための実戦可能な取り組み」を検討し、形になり次第早急にお知らせしたいと考えています。まだまだ不透明な点が多々ありますが、よろしくお願い致します。